

後 記

田中俊郎先生が明年三月をもって本塾大学法学部を定年退職される。実に寂しいことである。一九七一年四月に法学部助手に就任しておられるので、四〇年の長きにわたって法学部においてさらには常任理事として、学部や義塾のために大変なご尽力をしてこられた。そのご貢献に心から感謝したい。

本論文集の執筆陣をご覧になればお分かり頂けるとおり、先生は大変な数の門下生を教育・指導してこられた。田中俊郎先生について誰もが思い浮かべるのは、その魅力的な笑顔ではないか。どのような人に対しても、年長の者にも年少の者にも、門下の者にもそれ以外の者にも、分け隔てなくその笑顔を惜しみなく披露される。途端にその場の空気は和み、親密な感情が湧き、幸福な空間が生まれる。田中先生が常任理事や日本EU学会理事長をはじめ多くの組織でそのリーダーシップが歓迎されたのも、実に自然なことであった。田中先生の下でお仕事をさせて頂くことは、そのような幸福な空間を共有することでもあった。

その笑顔が笑顔以上のものであったことも、多くの方が気づいておられたと思う。まずは仕事に対する誠実さと合理性。どのような仕事に対してもどのような人に対しても、田中先生がそれを汚い言葉で語ったことは、一度も耳にしたことがない。同時に、合理的な精神で不必要なことや非効率的なことを改善しようと、大変なご尽力をされてこられた。そのような合理的な精神や非効率性の改善は、同僚や門下生への思いやりと義塾への愛情によるものであったと思う。上に立つ者として、少しでも快適な環境を提供しようと全力でお仕事をしてこられたのだろう。そのような誠実さと合理的な精神は、幼年時代に英国の洗練された教育を受けた結果に違いない。

まだまだお元気で笑顔が輝く田中先生には、これからさまざまな機会を通じてご指導を頂きたいと願っている。今後ますますご壮健であられ、ご健康に留意されて、後進をご激励くださるようお願い致します。

二〇一〇年一二月

法学部准教授 細谷雄一